

「オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクトの取組」

【取組の効果】

- サイクリスト応援カーの取組は、留萌・オロロンラインが始まりであり、他ルートへの波及効果（釧路、稚内、帯広、網走）が進んだ。
- 稚内でのサイクリスト応援カーへのお礼ツイートに、当時1.2万件のいいねがついた。また、受入環境整備や地域モチベーションの向上効果が得られた。

【今後の方向性】

- 今後は、サイクリストのみならず、協力企業においても便益のある取組を目指す。

▼サイクリスト応援カーの取組



サイクリスト応援カー出発式



自転車御守

▼他ルートへの波及効果

6月25日（土）、宗谷岬を目指していたら途中でパンク（><）修理で手こずっていたら、サイクリスト応援カーに助けられました。みなさんすごく親切で、そのおかげで無事宗谷岬までたどり着くことが出来ました。その節は、本当にありがとうございましたm(_)_m



午前11:41・2022年6月27日

1,671 件のリツイート 85 件の引用ツイート 1.1万 件のいいね

【他ルートへの波及効果】

ツイート（サイクリスト応援カーへのお礼のいいね！稚内）

地域における関係者の声

- 各道の駅や、サイクリストの方々が立ち寄る場所への自転車ラックの設置では、「このような場所に自転車ラックがあると、おもてなしの心を感じる」という満足の声が多かった。
- 自転車ラックの取組を知った、苫前の商業高校の学生たちから、「自分たちも、来訪者のおもてなしを支援したい」という声があり、一緒に5～6基の自転車ラックを制作した。子どもたちに、地域の良さや地域の活動、また、地域で働き、生きる中で、感じる幸せを伝えることが、大切である。サイクリスト応援プロジェクトを契機に、子どもたちが地域に興味を持っていると感じている。
- 簡易的なパンク等の修理でも、サイクリスト応援カーの利用者からは、非常に助かったという声を聞いている。また、ツイッターで、感謝が投稿され、話題になったときは、嬉しかった。
- 自転車御守は、増刷するほど好評であった。
- 子どもたちに、地元で暮らす意義を教えるイベントを開催している。「地域には、仕事がたくさんあり、地域で暮らす大人たちは、町に誇りに思う気持ちは、どこにも負けない」ということを伝えている。
- お仕事フェスティバルという中学生向けのイベントでは、地元の商店や飲食店、保育園栄養士、消防職員、役場職員、酪農や稲作、農家、漁師等の様々なブースを構え、地元にも多くの仕事があることを伝えた。アンケートでは、「苫前に住みたい」「苫前にもたくさんの仕事がある」という声が多くみられた。
- 道路パトロールカーの方々に、メカニック教室の講習を行い、受講認定証を渡すことを考えており、今年の5月頃に実施予定である。道路パトロールカーの方々が、自転車の故障箇所や、工具の使い方等の知識を習得できれば、取組の質の向上につながる。
- 予定ではあるが、天塩町または初山別村で、サイクリストのミーティングイベントの開催を考えており、数年ごとに1度の開催にすることで、来訪する節目となるような催しにしたい。「オロロンラインは、サイクリストの聖地である」と認識されるところまで持っていきたい。来訪者を地域のホタテやタコ等の海産物でもてなし、様々な意見を聞き出すことで、サイクリスト応援プロジェクトを充実させたい。
- 走行中の写真を持っているサイクリストは少ないという話を聞き、ミーティングイベントでは、カメラ好きの地元住民に協力を仰ぎ、走っている方々の写真を撮り、写真集としてプレゼントすることを考えている。

「宗谷管内におけるパートナーシップ活動の取組」

【地域の現状と課題】

人口減少下の地域活性化

- 人口減少下の宗谷管内において、定住人口の確保や交流人口の拡大を図るためには、「観光振興」や「誇れる郷土づくり」などが必要不可欠であり、そのためには、各地域で活動する多様な人材の発掘・育成や行政区に縛られない地域間連携による地域活性化が重要となっている。

地域間連携における交流の促進

- 宗谷南部の浜頓別町・中頓別町・枝幸町は、他には無い地域資源が豊富にあるが、宗谷岬や白い道、利尻、礼文等が観光地として有名な宗谷北部に人が集まりやすいという現状がある。
- 管内市町村の連携事例として、学芸員が連携して互いに巡回展を行う等の活動はしていたが、学芸員が未配置の町村との交流は少なかった。

【取組に至る経緯】

- 「①宗谷版北海道価値創造パートナーシップ会議」は、第8期北海道総合開発計画が掲げる「多様な人材の緩やかな「つながり」とコミュニケーションの「ひろがり」を促進」するためのプラットフォームの形成を目指して、H29に初めて、管内の観光・地域づくり関係者（地元のNPO法人や学芸員、観光や地域づくり活動をされている方々）を各自治体に推薦してもらうなどして開催した。本会議は、その後の各種取組のベースとなっている。
- 「②南宗谷3町の相互交流」は、H29開催の「①宗谷版北海道価値創造パートナーシップ会議」の出席者を中心に、稚内開発建設部が仲立ちし、旧枝幸村を構成して繋がり深い、浜頓別町・中頓別町・枝幸町の宗谷南部の3町で何か連携できないかと検討する中で、H30以降、本取組に繋がった。
- 「③管内学芸員等の相互交流」は、H29開催の「①宗谷版北海道価値創造パートナーシップ会議」の出席者に管内の学芸員の方がおり、学芸員同士の連携はしていたが、学芸員未配置の町村との連携が少なかったことから、稚内開発建設部が仲立ちし、H30以降、管内全体での本取組に繋がった。
- R3開催の「①宗谷版北海道価値創造パートナーシップ会議」の中で、マイクロツーリズムなどコロナ禍で近場を好む観光客向けに連携して誘客できないかとの意見があり、その後、参加者同士が自発的に連携して、R4に「②南宗谷3町の相互交流」の枠組で「アウトドアガイド連携」がスタートするなど具体的な取組に繋がった。
- R3開催の「①宗谷版北海道価値創造パートナーシップ会議」の中で、各々が所有している写真、図面等のデジタルアーカイブ化と観光にも資する効果的な情報発信に向け何か協力体制ができないかとの意見があり、その後、R4に「③管内学芸員等の相互交流」の枠組を中心に、稚内開発建設部が仲立ちして検討し、学芸員未配置町村も含め、管内の魅力ある文化資源や歴史的な名所をカード形式でHP上に公開する「宗谷遺産アーカイブズ」の具体的な取組に繋がった。

▼パートナーシップ会議をきっかけとした取組

①宗谷版北海道価値創造パートナーシップ会議

- 取組開始：H29（第8期北海道総合開発計画策定後）
- 取組内容：会議開催 講演と意見交換の2部構成
- 成果等
 - ・宗谷地域に人を呼び込むきっかけづくり
 - ・人材の横の連携を密にするプラットフォーム
 - ・新たな地域間連携の創出



②南宗谷3町の相互交流

- 取組開始：H30（PS会議がきっかけで連携開始）
- 取組内容
 - ・3町（浜頓別・中頓別・枝幸）連携の枠組づくり
 - ・地域資源モニターツアー
 - ・砂金堀り講演、体験
 - ・ほっかいどう学PR
 - ・アウトドアガイド連携 など
- 成果等
 - ・地域資源や人材を隣接する町同士が連携して補完
 - ・地域の将来を担う子ども達の郷土愛の醸成



③管内学芸員等の相互交流

- 取組開始：H30（PS会議がきっかけで既存組織と連携）
- 取組内容
 - ・自治体保有文教施設の見学、意見交換会
 - ・遺跡包蔵地共有
 - ・学芸員連絡協議会総会及び研修会への参加、支援
 - ・巡回展の後援、広報
 - ・「宗谷遺産アーカイブズ」の取組 など
- 成果等
 - ・文化、歴史等に精通する学芸員の連携による魅力発信強化
 - ・学芸員未配置自治体との連携支援

▼宗谷版北海道価値創造パートナーシップ会議



「宗谷管内におけるパートナーシップ活動の取組」

【具体的な取組内容】

稚内開発建設部の関わり

- ▶ 多様な人材の発掘・育成や行政区に縛られない地域間連携の場を創出するため、平成29年度から「①宗谷版北海道価値創造パートナーシップ会議」を稚内開発建設部主体で開催。これがきっかけとなり、H30以降、「②南宗谷3町の相互交流」及び「③管内学芸員等の相互交流」の取組に繋がり、仲立ちや広報などの面で支援を進めている。
- ▶ 近年は「①宗谷版北海道価値創造パートナーシップ会議」で連携・協働できる施策を議論し、「②南宗谷3町の相互交流」及び「③管内学芸員等の相互交流」の枠組で、新たな取組の具体化に繋げている。

①宗谷版北海道価値創造パートナーシップ会議

- 各地域で活躍されている方々（地元のNPO法人や学芸員、観光や地域づくり活動をされている方々）に地域の魅力・取組を語っていただき、人材の横の連携を密にすることにより、各参加者がそれぞれに刺激し合える関係を築き、宗谷地域に人を呼び込むきっかけづくりとなることを期待している。

②南宗谷3町（浜頓別町・中頓別町・枝幸町）の相互交流

- かつて旧枝幸村を構成していた南宗谷3町において、人材や施設などの地域資源を隣接する町同士が連携して補完し合うなど、行政区に縛られない地域間連携の場を創出する取組を実施している。
 - 首都圏の大学生を招いた地域の魅力再発見のモニターツアー（郷土料理を作って食べる体験、カヌー、クルージングの体験など）
 - 砂金掘り体験（体験施設における一般参加者や中学生等を募った砂金掘り体験、砂金の歴史等の講演会）
 - アウトドアガイド連携（地元の高校生等を対象にカヌー体験を実施）
 - ※アウトドアガイド連携とは、ガイド等の人材やカヌー等の資材を南宗谷3町で提供し合うことで受入可能人数や観光メニューを増やすことができるなど観光の発展に資する取組。
 - 各種体験と合わせて、将来を担う子どもたちの郷土愛の醸成のため「ほっかいどう学」等地域を学ぶ意義を説明

管内学芸員等の相互交流

- 自然、歴史、文化、産業等に精通している管内学芸員等が連携することによる地域の魅力の発信に期待して、宗谷管内学芸職員連絡協議会など管内学芸員等と協働する取組を実施している。
 - 宗谷管内学芸職員連絡協議会の総会、研修会（講演、発掘現場見学等）
 - 各自治体保有文教施設見学及び意見交換会
 - 巡回展（毎年テーマを決めて学芸員が作成したパネル等を期間を定めて各市町村で巡回展示）
 - ※稚内開発建設部公式TwitterでPR
 - 「宗谷遺産アーカイブズ」の取組（管内の魅力ある文化資源や歴史的な名所をカード形式でHP上に公開）

▼南宗谷3町の相互交流



地域資源モニターツアー



アウトドアガイド連携・カヌー体験



砂金掘り体験



ほっかいどう学PR

▼管内学芸員等の相互交流



保有文教施設見学



研修会（遺跡発掘現場見学）



意見交換会



協議会総会（web）



巡回展「北のコウモリ」

宗谷遺産アーカイブズ	
宗谷歴史神社	
住所	宗谷市の歴史を伝える神社
祭神	宗谷の歴史を伝える神社
祭典	宗谷の歴史を伝える神社
備考	宗谷の歴史を伝える神社

宗谷遺産アーカイブズ

「宗谷管内におけるパートナーシップ活動の取組」

【取組の効果】

- 「①宗谷版北海道価値創造パートナーシップ会議」では、会議を契機に参加者同士が自発的に繋がり、アウトドアガイド連携を実現したり、会議で得た意見から「宗谷遺産アーカイブズ」の取組が始まるなど、稚内開発建設部で仲立ち等をしつつ、地域が主体となって取組を進めるなど、地域に人を呼び込むきっかけづくりの場となり、人材の繋がりを促進するプラットフォームとして機能している。
- 「②南宗谷3町の相互交流」では、砂金堀り体験、アウトドアガイド連携など、隣接する町同士で地域資源を補完するなど行政区に縛られない地域間連携を創出するとともに、地元中高生の総合学習の一環としても実施しており、自分の町や隣町、さらには北海道全体のことを学ぶことにより、地域の将来を担うこども達の郷土愛の醸成にも寄与している。
- 「③管内学芸員等の相互交流」では、文化、歴史等に精通する学芸員の連携による地域の魅力発信の取組が強化されるとともに、巡回展、「宗谷遺産アーカイブズ」などの取組により、学芸員未配置町村との連携も進み、宗谷管内全体として連携した取組が増えてきている。

【今後の方向性】

- 「①宗谷版北海道価値創造パートナーシップ会議」では、今後も継続して開催し、地域に人を呼び込むきっかけづくりの場、人材の繋がりを促進するプラットフォームとして機能し続けるために、実践的な意見が得られる工夫や、会議参加者の積極的な取組への参画を促すなど、具体的な活動を広げていきたい。
- 「②南宗谷3町の相互交流」では、引き続き、砂金堀り体験、アウトドアガイド連携など地域資源を補完する取組を進め、地域住民、学生同士が交流を進めるなど、3町連携をさらに深めていきたい。
- 「③管内学芸員等の相互交流」では、引き続き、巡回展、「宗谷遺産アーカイブズ」などの取組を進め、文化、歴史等に精通している学芸員等の連携による魅力発信を進めていきたい。特に学芸員未配置の町村においても十分なPR等ができるよう、さらに連携を深めていきたい。

地域における関係者の声

観光面

- 宗谷では、稚内、利尻、礼文、豊富等の北部地域に力が入りがちだが、稚内開発建設部の後押しにより、**南宗谷3町で連携し、各町で体験観光が実施できるようになった。**
- これまではなかった、東京や神奈川等の都市圏や本州、道内では札幌・旭川圏からも来訪があり、再訪し、2日宿泊された方もいた。令和4年7月1日から体験型観光を始めたが、**ほぼゼロに等しかった枝幸での体験観光が、20件以上、カヌーや調理等の観光客が来ている。**結果が目に見え、モチベーションも上がり、積極的に観光業に取り組めた。何も無いといわれていた**南宗谷の魅力を発信できた**と感じている。

文化面

- 「郷土料理を作って食べる体験」では、新鮮な枝幸の海産物は、首都圏では食べられないため、**実際に目の前で獲れた魚を調理して食べてもらう体験は、本当に喜んでいただけた。**また、居酒屋では出ないような田舎ならではの料理を食べる体験も実施しており、好評である。
- **稚内開発建設部の仲立ちによって、初めて学芸員が未配置の町村との連携が生まれたことが、大きな効果である。**令和4年のオホーツク管内の博物館の集まりでは、稚内開発建設部が仲立ちして連携していることに驚かれた。学芸員が未配置の町村も含めた取組は、宗谷独自の動きだと思う。他の地域にも広がればと思う。
- 本取組によって、**地域住民が地域を知ることができた。**特に子どもたちは、隣町でも知らないことが多く、隣町で体験することで、南宗谷に関心をもつきっかけになっている。例えば、浜頓別町でオオワシの観察会、浜頓別町と中頓別町で砂金堀り体験をしている。
- 例えば、浜頓別町の自然体験の団体から、「今日は雨が降っているから、枝幸の博物館を見ておいで」というように、互いに紹介し合う形で、**南宗谷3町の中での相互利用が促進されている。**
- 南宗谷3町の連携では、現在は、枝幸町が事業を企画し、参加者を集め、浜頓別町や中頓別町に連れて行って体験させてもらう、という形態に留まっている。**今後、枝幸町だけではなく、浜頓別町や中頓別町の方々にも参加いただき、同じ事業をすることで、地域住民の交流が進むと考えられる。**
- 「宿泊施設」「博物館等の文化」「観光」の3つが連携し一体となり、**枝幸版アドベンチャートラベルの取組を進めており、枝幸で最も人が訪れるミュージアムを文化施設としてだけでなく、観光資源としても活かそうとしている。**さらには、宿泊して遊んでもらうことを目指している。

▼令和4年度 体験観光等実績

項目	体験メニュー	宿泊	件数(件)	人数(人)	参加者情報など
1	カヌー	有	5	各1~4	・札幌・神奈川他
		無	6	各1~9	・高校生・町民・近隣市町村他 ※9名参加時には、南宗谷アウトドアガイド連携活用
2	フィッシング	有	1	1	・東京
		無	2	各2~3	・アウトドア企業関係者他
3	ホケテ調理	有	2	各2~4	・札幌市、町関係者他
		無	-	-	-
4	鮭調理	有	1	2	・札幌市
		無	-	-	-
5	その他魚調理	有	1	2	・東京都他
		無	3	各3	-
6	GPホテルお盆特別企画	-	3	各45~49	【企画内容】 ・枝幸ほたて浜焼きPR ・ライトラップ ・虫かごプレゼント ※ふるさと納税PR

※オホーツク枝幸ブランド推進本部が開いた実績